

友の会通信

2016
Vol.
34

～ 群馬県立自然史博物館友の会 ～



11月8日 上越市立水族博物館・ フォッサマグナミュージアム

恒例となった自然史博物館の研修旅行は、11月8日(日)に実施されました。雨の降りしきる早朝、参加者42名は県内各地から参集し、博物館を7時に出発。松井田妙義インターから上信越自動車道に入りました。夢と期待を乗せて一路上越市・糸魚川市をめざすバスの旅の始まりです。雲に霞むまるで墨絵のような碓氷峠・垣間見える近景の紅葉はメルヘンの世界の様でした。

東部湯の丸に着く頃には、雨もすっかり上がり桜並木の紅葉が薄日にみごとに映えていました。妙高高原を経て上越市立水族博物館に到着しました。この水族館は地下一階、二階から成る大規模な近代的なものでした。地下では、カワウソ・アザラシ・ペンギン等が飼育されペンギンランドでは、百羽ものマゼランペンギンが泳ぐ姿は愛らしく壮観でした。

一階のトロピカルランドではサンゴ礁に生息する百種千匹の魚が泳ぐ様は宝石箱であり、夢のようでした。世界最大の巨大ダンゴムシ、海底に生息しているというダイオオグソクムシに触れ観察できたのもラッキーでした。

昼食の弁当をいただきながらバスで糸魚川市のフォッサマグナミュージアムに向かいました。白を基調とした近代的な建物の前で集合写真を撮り見学に入りました。中庭には大きな日本列島が横たわり、日本列島を大きく東西に二分するフォッサマグナ大断層の上に立って、位置と成因を認識し展示場に入りました。糸魚川-静岡構造線の東西では地質が大きく異なり西側では1億年より古い岩石ヒスイが産出、大きさも大小さまざま色も灰・白・黒・緑・薄紫・青と世界最古の宝石とか、東側は2千万年より新しい岩石から出来ているとのこと。見どころいっぱい、さすが日本最初のジオパークです。今後何回でも訪れゆっくりと見学したいと思いました。雨もあがり充実したすばらしい研修旅行でした。(堀越友子)



11月8日

視察研修旅行 (上越市立水族博物館・ フォッサマグナミュージアム)

参加者の声

この企画に参加して、たいへん楽しかったです。いちばん楽しかったのは、フォッサマグナミュージアムで化石と宝石とヒスイをひろったことです。水族館では、たくさんのさかながいてびっくりしました。とくにびっくりしたのが体がすけていて骨が見えていることでした。
(清水大地さん)

水族館では、大オオグソクムシを見ることができました。ダイオオグソクムシは思ったよりも大きくてびっくりしました。また、大きな水槽の餌付けをちょうど見ることもできました。たくさんの魚が餌を取り合っているのを見ることができてよかったです。アシカやペンギンなどたくさんの生き物が見られてよかったです。フォッサマグナミュージアムでは、ナウマン博士の部屋や地球の誕生のテーマの展示がありました。わかりやすい説明が書いてあったり、たくさんの石の標本があったのでよかったです。
(倉金遙子さん)

フォッサマグナミュージアムで印象に残っているのは、たくさんの美しいヒスイと鉱物の原石、フォッサマグナと日本列島誕生についてのスライドショーです。特にダイヤモンドや金の原石はほとんど日常にある石と変わらず、これが磨くとあんなきれいな物になるんだなあと一人で感動していました。後日、博物館好きの友達にそれを話したら、「いく、いく！絶対いく！」と話していました。
(田部井花芽さん)

フォッサマグナミュージアムのこんにやく石が一番驚きました。曲がる石があるなんて思わなかったです。どの場所も面白かったので、またゆっくりみたいと思いました。近くにヒスイがとれるかもしれない海岸があるそうなので、そこにも行ってみたいです。
(江原朔玖さん)



体験 活動

8月8日

榛名山周辺の植物観察会



8月8日(土)友の会の12名が霧の榛名山ビジターセンターに集合し、ゆうすげの道入り口まで移動して観察会を行いました。講師は榛名山で昭和天皇を案内したことがある里見哲夫先生です。

沼の原は湿原から草原、陽樹林に遷移したところで開墾により人の手が入ってジャガイモやキャベツが植えられ、その後再び陽樹林に遷移しつつある場所です。

里見先生にはいろいろと興味深い有益な話をして頂きました。

- DNA分類でカエデ科はムクロジ科に変わり、今までの知識をリセットしなければならないこと。
- 榛名山には、ミズナラとカシワの雑種のホソバガシワがあること。
- 実物のパウチが説明に有効であること。(ミズナラとカシワとホソバガシワの葉のパウチ、各種のカエデのパウチ、ケヤキの落ち穂のパウチ、ツマグロヒョウモンの翅のパウチなど)ゆうすげの道に入る前に多くの観察材料があつてなかなか進みません。
- セイヨウタンポポとカントウタンポポ・・・遺伝子レベルではほとんど雑種。
- ツリガネニンジンとフクシマシャジン。
- エゾタチカタバミとオッタチカタバミ。
- ヤマホタルブクロとホタルブクロなどなど。

時間が全く足りなかったけれど、充実した観察会になりました。

ゆうすげの道では以下の花が見られました。イタドリ、ウツボグサ、エゾタチカタバミ、オオバギボウシ、オカトラノオ、オトギリソウ、オミナエシ、カラマツソウ、カワラナデシコ、カワラマツバ、キキョウ、キンミズヒキ、クサレダマ、クルマバナ、コウゾリナ、コウリンカ、ココニユリ、サクラスミレ、シラヤマギク、タカトウダイ、チダケサシ、テリハノイバラ、ナワシロイチゴ、ニガナ、ネバリノギラン、ノギラン、ノコギリソウ、ノハナショウブ、ノリウツギ、ヒメシロネ、ヒメヤブラン、ヒヨドリバナ、フタバハギ、マツムシソウ、ママコナ、マルバハギ、ミヤマニガイチゴ、メマツヨイグサ、ヤマラッキョウ、ユウスゲ、ワレモコウ

(櫻井 昭寛)





12月20日

体験活動「藍染体験」



12月20日(日)、高崎の染料植物園において16名の参加者ととも染色体験をさせていただきました。タデ科の仲間のアイの葉を発酵させた「薬(すくも)」を灰汁(あく)・ふすま・酒・石灰とともに藍甕(あいがめ)に仕込んで発酵させたものを染色に使用します。タデ科のアイは、私達の身近によくみられるイヌダテなどに似ていますが、葉をつぶすと手が青く染まるので見分けられるとのこと。アイは自生というものがほとんどないため、染料植物園では毎年種から育てているそうです。毎日夕方にかめを攪拌し、かめの中の染色液はPH11~12になるよう調整しているそうです。染色作業でアイの菌が消耗した時にはお酒を入れて疲れをとるという愛情をそそぎつつ育てた大事なものを使用させていただけるということで、とても緊張しました。まず、ゴムで白く染めない部分を締めました。その後、アイの入ったかめに布を入れ、水にさらし発色させることを4回繰り返します。星形、ハート形、星座などそれぞれ思い思いの作品を作ることができました。化学薬品を一切使わず、自然な色の藍染めが出来ました。(佐藤真由美)



参加者の声



- 身近で非日常の体験が出来てよかったです。今度は、事前にデザインを考えてチャレンジしたいと思います。(小室智之さん)
- とてもわかりやすく、いねいな説明で満足のいくものが出来ました。藍染めつてすごいなと思いました。(小室照和さん)
- 藍草で染める体験は初めてで、手数があり、なるほどたいへんな仕事だと思いましたが、出来上がりもうれしく、本日は楽しい一日でした。(田部井紀幸さん)
- 染めものは初めてだったのですが、とても楽しかったです。バンダナは、実用的だったので、喜んで使わせていただきます。(田部井花芽さん)
- ぼくはしなかったけど、みんな楽しそうでしたので、こんどあったらやりたいです。(田部井緑太郎さん)
- 思った以上に難しく、おもしろかったです。また、染めてみたいと思いました。(江原久美子さん)
- けっこうむずかしかったけど、いいのができてよかったです。(江原朔玖さん)

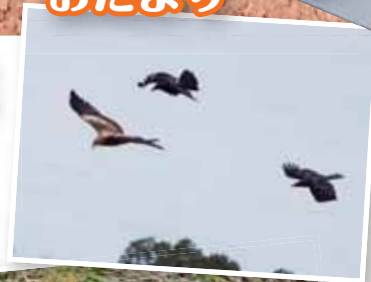
私が見つけた自然

友の会会員からのおたより

ファミリー自然観察会「水辺の鳥」に参加して出会った偶然!!

平成27年12月6日
場所:高田川(富岡市生涯学習センターの西付近)

水辺の鳥の観察会で、水辺の鳥を観察していたら・・・カラスがトビをしつこく追いまわしているのを見ました。餌の取り合いをしているのかと思ったけど、餌はなかったので縄張り争いだと思いました。そして川岸を何かが走っているのを双眼鏡でみたら、イタチが魚をくわえて走っていました。(江原朔玖)



私が見つけた自然 募集中

自分の身の周りで、かわいらしい自然を見つけたとき、珍しい自然と出会ったとき、その瞬間をカメラで記録して、写真とその時のエピソードを添えて自然史博物館友の会へ封書またはメールでお送り下さい。(メールアドレスは、事務局0274-60-1200にお問い合わせ下さい。)期日と撮影場所をお忘れなく・・・エピソードは簡単なコメントで結構です。友の会通信で紹介させていただきます。なお、応募していただいた方にすてきな賞品をプレゼントいたします。

Event イベント紹介

【友の会総会】 日時:5月8日(日)10:00~10:30 場所:学習室
 【友の会講演会】 日時:5月8日(日)10:45~11:45 場所:学習室
 内容:化石とパソロジーの問題 講師:長谷川善和名誉館長

第51回企画展

「よろいをまとった生きものたち」

会 期:3月19日(土)~5月15日(日)
 観覧料:一般610円 高校・大学生300円

からだの一部がよろいのように
 なっている生きものは、深海から陸
 上までさまざまな場所に生息してい
 ます。標本をみて生きものがなぜよ
 ろいをまとったようになったのか考え
 ていただける展示になっています。



20周年記念展

「超肉食恐竜 T-rex」

会 期:【前期】7月16日(土)~
 9月22日(木)
 【後期】10月1日(土)~
 11月27日(日)

観覧料:一般820円
 高校・大学生410円

友の会入会・継続のお知らせ

博物館への入館料が1年間無料!

その他の
 入会特典は
 次の3つです。

- 1 ミュージアムショップの割引
- 2 友の会行事等への参加
- 3 博物館からの情報配布

年会費

- ①一般会員……………3,000円
- ②高・大学生……………2,000円
- ③小・中学生……………1,000円
- ④家族会員……………5,000円
- ⑤賛助会員(1口)………10,000円

◎現会員の方は、引き続き入会をお願いします。また、
 お知り合いの方に新規加入をおすすめいただけ
 ば幸いです。

博物館利用案内

開館時間:午前9時30分~午後5時(ただし入館は午後4時30分まで)

休 館 日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)
 年末・元日、その他(博物館ホームページでご確認下さい。)

観 覧 料:一般510円 高校・大学生300円 中学生以下無料
 企画展開催中は特別料金(上記「イベント紹介」をご覧ください)

※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方
 とその介助者1名は無料

10月28日 ぐんま県民の日イベント 「化石発掘体験」

ぐんま県民の日
 に博物館実験室を
 会場にして、友の
 会で「化石発掘体
 験」を行いました。
 柚木副会長、佐藤
 真由美さん、清水
 静枝さん、江原久
 美子さん、江原朔
 玖君に出席いただ
 き、化石発掘体験を来館者に提供しました。午前中
 で80名あまりの方に体験していただき、26,000円の収益
 がありました。収益に関しては、友の会会計に入れ、研
 修会等で有効に活用させていただきました。



化石発掘体験のボランティアの感想

僕は初めてこのような体験をやりました。お客さん
 が使うものの準備や後片付け、化石を選ぶポイントや
 出てきた化石の説明などを行いました。お客さんが、僕
 の説明でわかって喜んでくれた事や、「お兄ちゃんが選
 んでくれたから、化石がいっぱい出たよ。」と言われた
 事がとても嬉しかったです。いつか発掘現場で、手伝い
 がやってみたいと思いました。(江原朔玖)

編 集 後 記

12月上旬旅行の際、沼津港深海水族館へ行ってきました。冷凍シーラカンス、名前にはエ
 ビと付いているがヤドカリの仲間で、お腹を内側に折りたたむようにしているオオコシオリエ
 ビ、沼津周辺では、オス、メスつがい捕獲されるため、「夫婦(めおと)ガニ」と呼ばれて
 いる高級ガニイバラガニモドキ、パラシュートのような形で吸盤が一行列しかなくスミも持たな
 い可愛いメンダコ、「海の掃除屋」と呼ばれている最大50cmにもなるダイオオグソクムシ
 など、色々見て勉強しました。忘れないよう覚えたいですね。(伊丹清美)